

| 2023年度 日本工学院専門学校 | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------------------------------|----|------|----|----|-----|-----|----|----|---|
| 声優・演劇科 俳優コース | | | | | | | | | | | |
| 舞台実習Ⅳ | | | | | | | | | | | |
| 対象 | 2年次 | 開講期 | 後期 | 区分 | 選択 | 種別 | 実習 | 時間数 | 70 | 単位 | 2 |
| 担当教員 | 磯村純、千田恵子、須藤黄英 | | | 実務経験 | 有 | 職種 | 演出家 | | | | |
| 担当教員紹介 | | | | | | | | | | | |
| 劇団青年座 所属 東洋大学文学部国文学科 卒業 演出／青年座「シェアの法則」、音楽朗読劇「冷蔵庫のうえの人生」他。プロデュース公演の演出助手も多数。 | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この授業で、演技メソッドを用いての基本的な発声方法、演技をするための基礎的な体の使い方、役作りに対するアプローチなど声優・俳優になる為の具体的な技術を身につけていく為の授業を行う。戯曲読解から役を立ち上げていく過程、実践的な発表と講評などを通じて声優・俳優という仕事を理解することを通じて、業界に出て職能として通用する自立した俳優・声優となることを目指す。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | | | | |
| この科目では、戯曲を分析し理解すること、基礎的な発声を身につけること、声優・俳優として必要な身体性を獲得すること、他者と関わり一つの目標に到達できるようにコミュニケーションを取ること、演劇作品を創造する上で必要な具体的な演技方法とその実践を行うことで、声優・俳優として社会に出た時に必要な考え方、技術を習得することを目標にしている。 | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | | | | | | | | | | | |
| エチュードや戯曲を使用し劇創作の協働を行う | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | | | | | | |
| 成果発表 | 50% | 中間発表などの舞台成果、授業内で行われる実技発表の内容について評価する | | | | | | | | | |
| 課題 | 30% | 授業内で行われる課題発表の成果について評価する。 | | | | | | | | | |
| 平常点 | 20% | 積極的な授業参加度、授業態度などで評価する。 | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | | | | |
| この授業では声優・俳優に必要な心構えとして集合時間、開始時間など時間を守ることを徹底する。チームを組んで創作、発表をする機会も増える為学生間のコミュニケーションを重視する。自立した声優・俳優を目指すために授業に出席するだけでなく、積極的な参加、発表を求める。課題として出た戯曲やテキストは授業の前に目を通しておく。ただし、授業時数の4分の3以上出席しないものは定期試験を受験することが出来ない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書教材 | | | | | | | | | | | |
| 毎回授業にて資料配布を行う | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | | | |
| 第1回 | 戯曲を読む 戯曲に書かれている世界観、文脈を理解する | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 戯曲を読む 戯曲に書かれている役に関する理解する | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 戯曲を読む 戯曲を作品として上演する為に必要な要素を理解し、実践してみる | | | | | | | | | | |
| 第4回 | モノローグとダイアローグ 一人で話す台詞と他者と話す台詞の違いについて理解する | | | | | | | | | | |
| 第5回 | モノローグとダイアローグ 一人で話す台詞と他者と話す台詞の違いについて理解する | | | | | | | | | | |

| 2023年度 日本工学院専門学校 | |
|------------------|--|
| 声優・演劇科 俳優コース | |
| 舞台実習Ⅳ | |
| 第6回 | 目的と障害を読み解く 戯曲に書かれている内容から具体的な演技につなげるアプローチ力を養う |
| 第7回 | 目的と障害を読み解く 戯曲に書かれている内容から具体的な演技につなげるアプローチ力を養う |
| 第8回 | シーンを立ち上げる 戯曲の一部分を具体的に演じ、演技をする為の方法を理解する |
| 第9回 | シーンを立ち上げる 戯曲の一部分を具体的に演じ、演技をする為の方法を理解する |
| 第10回 | シーンを立ち上げる 戯曲の一部分を具体的に演じ、演技をする為の方法を理解する |
| 第11回 | 作品を立ち上げる 戯曲全体を理解し、役を構築する力を養う |
| 第12回 | 作品を立ち上げる 戯曲全体を理解し、役を構築する力を養う |
| 第13回 | 作品を立ち上げる 戯曲全体を理解し、役を構築する力を養う |
| 第14回 | 上演を目指す 戯曲を一つの作品としての発表するために必要な要素を総合的に養う |
| 第15回 | 上演を目指す 戯曲を一つの作品としての発表するために必要な要素を総合的に養う |
| 第16回 | 上演を目指す 戯曲を一つの作品としての発表するために必要な要素を総合的に養う |
| 第17回 | 上演を目指す 戯曲を一つの作品としての発表するために必要な要素を総合的に養う |
| 第18回 | 発表 |
| 第19回 | 発表 |
| 第20回 | まとめ |